

## 第6回浪江町復興検討委員会 議事概要

1. 日時 平成24年2月20日(月) 13:00~16:25

2. 場所 安達地方広域行政組合自治センター 3F会議室

### 3. 出席者

#### 【委員】

鈴木浩委員長(第2部会長)、吉岡副委員長(第3部会長)、丹波委員(第1部会長)  
(第1部会)

山本委員、高田委員、今野委員、岸委員、松本伸一委員、佐藤隆委員、泉田委員、  
櫻井委員、畠山委員

(第2部会)

高橋委員、稲田委員、佐々木保彦委員、原田委員、戸川委員、佐藤博美委員、坂  
委員、松本孝徳委員

(第3部会)

菊池委員、叶谷委員、松崎委員、松本茂子委員、石田委員、御代委員、上野委員  
(欠席)

鈴木充委員、佐々木久雄委員、鈴木市夫委員、門馬委員、半谷委員、橋本委員、  
難波委員

#### 【事務局等】

玉川企画調整課主幹

### 4. 議事

(1) 全体会(前半)

・町民への意見公募結果と子どもアンケート集計結果について

(2) 部会審議

①町民への意見公募結果に関する議論

②子どもアンケート集計結果に関する議論

(3) 全体会(後半)

①部会報告

②全体討議

### 5. 議事概要

## 1. 全体会（前半）

### 事務局

- ・大井委員が2月11日にお亡くなりになった。追悼の言葉を述べさせていただくと共に、出席者で黙祷したい。（出席者、黙祷）

### ○委員長あいさつ

#### 委員長

- ・第2部会で大井委員と共に議論をしてきたが、今回の原発事故が彼の心にも体にも大きな影響を及ぼしたと思う。非常に悔しい思いである。
- ・今回は第6回目の復興検討委員会となる。既に復興ビジョンの中間報告を公表し、パブリックコメントの募集を行った。そのパブリックコメントの内容をお示しし議論したい。また、子ども向けにアンケートを行ったことから、復興ビジョンに対する考えを整理し、最終的な復興ビジョンにどう反映するかがメインのテーマになる。事務局よりパブリックコメントでの意見、そして子ども向けアンケートの結果を聴取し、その上で部会ごとに別れ、復興ビジョンに反映できるもの、今後引き続き議論していくもの、の議論を行っていく。
- ・2月10日に復興庁が発足し、その出先機関として福島復興局が設置され、国の復興に対する最終的な体制が整ってきた。ただ、自分はこの間に、被災地の被災者に寄り添うとはどういうことかを考えてきた。自分の知り合いの研究者は、三陸の津波被害現地に入り込む人もいれば、福島の被災地にも入り込んでいる人もいるが、被災地の被災者に寄り添うということを本当に理解しているか、と思う時もある。もしかすると自分自身もわかっていないかもしれない。復興庁、そして復興局がどのように被災地に寄り添っていくか、自分たちからきちんと発信していかなければならない。
- ・我々の復興ビジョンが被災地や被災者の要求を反映したものだけではなく、復興に向けて全国に届いていく、大げさには全世界に届いていくようにしないと、復興そのものが成し遂げられない。そのつもりで復興ビジョンに想いを託したい。各委員におかれてもそのような気持ちで取り組んで欲しい。

### ○町民への意見公募結果と子どもアンケート集計結果について

#### 事務局

- ・町民への意見公募結果（パブリックコメント）について、資料1-1、資料1-2、資料1-3に沿って説明
- ・子どもアンケート集計結果について、資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4に沿って説明。
- ・第5回復興検討委員会事前課題について、資料3-1、資料3-2、資料3-3を

紹介。

## 2. 部会審議

### ○問題提起

#### 事務局

- ・パブリックコメントへの意見、子どもアンケートの意見を主に参考にいただき、復興ビジョンを策定するにあたってどのような点に目配りが必要か、ご発言いただきたい。どのような意見を強化していくべきか、国に求めていくべきかを部会ごとにまとめていただき、最終的には大所の修正についてご提案いただきたい。その上で3月上旬を予定している復興検討委員会で修正した復興ビジョンをお示しし、再度意見を伺っていきたい。

### ○各部会に分かれて討議

## 3. 全体会（後半）

### ○部会での討議の要旨報告

#### 【第1部会】

- ・復興ビジョンの中身が、実際は趣旨が書き込まれているが伝わってはいない部分がある。例えば、復興ビジョンの中では「帰る・帰らない」の議論ではない、と触れてはいるものの、住民には伝わっていないという印象。丁寧に住民に説明していくべき。
- ・既に町民の方々はこれから生活のことを含め、一步踏み出して生活をしている方もいる中で、復興ビジョンが追いついていない、という意見もあった。早く、具体的な計画などの議論を進め、例えば警戒区域の見直しが行われた際に浪江町としてどのように考えていくか、住居や就労をどうするかを早くに示す必要がある。そのためには地域、特に自分たちが住んでいた浪江町がどのようになっているか、十分に知らされていないことから、除染マップをしっかりと作り、住民一人一人が自分たちの住まい・地域の汚染状況を確認した上でないと議論ができない。横文字が多いことや汚染状況や、復興ビジョンだけでは説明できない部分があるので、丁寧に住民の方々に説明できる補足的な情報を含めるべき。
- ・子どもたち自身は浪江町のことを考えており、子どもたち同士が会えないということを見ると、子どもたちの想いに応えることや、前向きな意見に対して浪江町のまちづくりにどう活かすかという観点も計画の中に盛り込んでいくことも必要。また、子どもたちが集う場を作ることも必要。
- ・浪江町というふるさとを取り戻す際に、子どもたちの感じている浪江町の良さ、自

然や伝統文化を含めた良さをどう活かしていくか。遠い将来という考えではなく、福島市などの近隣で御祭りを催すという意見もあったため、浪江のアイデンティティを維持するような取り組みも必要。

- 大きな災害を受けて、原子力や放射能の不安、健康への影響を含め、町民が苦勞している中で、浪江町としての原子力のスタンスが必ずしも明確に書かれていない。他の市町村は再稼働を含めて議論しており、浪江町として何らかの発信をする必要がある。

## 【第2部会】

- パブリックコメントの提出意見が68件だったことに対する意見があった。様々な思いを詰め込んだ委員会としては、68件は少ないという印象。これはどうしてかということ、住民が避難している中で、それぞれの日常的な想いと復興ビジョンとの内容が乖離しているのではないかとも見える。あるいは、わかりづらいから反応できないとの考えも。パブリックコメントの回答が68件だったことを重く受け止めたい。
- 仮設住宅などの今の生活では不満や不安があるため、例えば暫定2万人規模の仮設コミュニティを作ることや、除染をどこまでやるのかなどの具体的な提案を行い、その上で一人一人が「帰る・帰らない」の判断をできるようにするということを発信すべきではないか。
- 復興ビジョンと復興計画は役割が違うという意見があった。復興ビジョンそのものは理念を示していくことが目的であるが、今の浪江町民の生活との乖離があり、それがパブリックコメントの意見の少なさに反映しているのではないだろうか。そして復興ビジョンの後には復興計画を策定するのであれば、住民一人一人の生活状況や意識、要望などに寄り添った意向調査を行うことや集落ごとに協議を行った上で、基本計画を策定することが必要ではないか。
- 委員会では「帰ることだけが選択肢ではない」という議論をしてきたが、改めてパブリックコメントの意見を見ると、「帰ることが前提」という印象を与えてしまっている。我々が思っていること、伝えたいこととギャップがあるため、その差を埋める努力が必要ではないか。
- 子どもアンケートはとても熱い想いを感じることができた。復興ビジョンから復興計画の繋ぐ際に、または復興ビジョン自体にどう反映させるか、きちっと位置づけをすべき。
- 浪江町民は町長の強力なメッセージに期待を持っている。町長がどのような考えを持っているのか、また、今日にも町長が参加して欲しかったという意見を含め、町民に対して町長の意見が伝わっていないのではないか。
- 復興ビジョンや復興計画の実現性を確保するためにどのようにすればよいか、という議論を行ったが、現実的には苦しい・辛いと思っている方が多い中、戻ろうとすることも容易なことではなく、ある意味ではゼロからのスタートではなく、マイナ

スからのスタートでもあることも事実。それを覚悟しながら浪江町の復興を進めなければならない。住民の気持ちを萎えさせないようにし、その中でどのように戦っていけるか、その仕組みを考えなければならない。そのために、今の浪江町の放射線量や人口など、浪江町民がいつでも現状把握をできる仕組みが必要であり、また、役場と住民との繋がりを保つため、例えば町の広報誌に返信用封筒を入れ、意見があれば何でも記載して役場に意見を伝えられるような繋がりを維持・確保できるような仕組みがあれば、計画をチェックすることにも繋がるのではないか。

### 【第3部会】

- ・賠償への意見が多く出た。町役場が賠償に対して具体的にどのように取り組んでいるのか、という意見から、特に財物の賠償が先決になるところ、より積極的に取り組んで欲しいため、強い書き込みを行うべき。
- ・復興住宅については、今の生活環境が大変厳しいこと、また、できればコミュニティ単位でまとまって復興住宅の建設ができないか、例えば浜通りで5千人単位の復興住宅を整備するなどの意見があった。単に「復興住宅が必要」という議論ではなく、どのような住み方ができる・どのような規模・どのような新たな町ができる復興住宅がよいのかを考えていくべき。また、復興住宅の議論をする際には働く場所とのパッケージで考えていく必要がある。その場合には浪江町だけで議論することは難しいため、国に対して強い要求を書き込んでいく必要があるのではないか。そしてスピーディーな対応を求めるべき。
- ・帰るためだけの復興ビジョン、という点については、住民に対して良く伝わっていないのではないかと、という意見があった。「すべての町民の暮らしの再建」という書きぶりがあるが、それが良く伝わっていないためにより具体的な記載をするべき。
- ・パブリックコメントにて「産業振興」「農林水産業に対する不安」という意見があったが、夢のある記述や具体的に記載することにより、不安を解消することができないか。
- ・子どもアンケートを読むと、子どもは強い、という印象を受けた。また、「今の生活が楽しい」という意見もあり、順応性も感じられた。この委員会の過程も子どもたちに見てもらうことが必要になるのではないかと。場合によっては、子どもたちにも委員会に入ってもらっても良いのではないかと。
- ・復興ビジョンが伝わりにくいという点については、例えば絵を入れてわかりやすく説明することが良いのではないかと、という意見があった。場合によっては、絵を多く取り入れた子ども向けのビジョンを作ることがあっても良い。
- ・双葉郡全体としての動きが必要になるという意見があり、どこまで書き込めるかは議論ではあるが、双葉郡としての取り組み記載できる箇所については書き込んで欲しい。

## ○全体討議

### 鈴木委員長

- ・今から3回ぐらい前の委員会の際、復興ビジョンはできるだけ簡潔にしようと見直しを行ってきたが、改めて復興ビジョンを見ると大部なものになったと感じた。年配の方は全体を読むのも大変でありこれではパブリックコメントどころではなかったのかと思う。
- ・各委員から様々な意見を受けた。最終案にどのように反映させるかは各部会の会長の意見を聞きつつ取り組んでいきたい。次回には最終復興ビジョンに向けた案を提案し、ご了解いただければ復興ビジョンをセットし、次の段階に進みたいと考えている。

### 稲田委員

- ・二重住民登録ができる仕組みをアピールすべき。具体的には沖縄県に居住し住所登録していたとしても、浪江町にも住所を置くことができるという仕組みを考えるべきである。戸籍法の仕組みにも関係するかと思うが、これによって浪江町から抜け出したいと思う住民はいなくなるだろう。2万人規模の町民を確保できれば県や国に対して強い要望もすることができるし、町としての一体性も永続すると考える。「国際都市・浪江」という位置づけになるであろうが、夢のある町をアピールして欲しい。ふるさと浪江に帰るだけでなく、強いメッセージになる。

### 鈴木委員長

- ・二重住民登録が浪江町の復興ビジョンにどう位置づけられるかを議論し、次回に報告したい。

### 御代委員

- ・今回の委員会は6回目であるが、当初は議論になかった区域の見直しや中間貯蔵の問題、財物の賠償の話が後から出てきた。各委員の意見を聞いているとより具体的な方針を求めているというイメージを持っている。
- ・復興ビジョンから新しい計画作りにバトンを渡すタイミングに来ているのではないか。具体的な方針すべてを復興ビジョンの中で議論することは難しいという印象も受けた。

### 坂委員

- ・2月10日に復興庁が立ち上がり、岩手・宮城・福島に事務局を設置された。福島事務所は現在、30名程度の職員がいる。地域に寄り添うという考えのもと、土日には大臣も各事務所を回っており、また、職員もできる限りで現場に出向くように心がけ、地域の意見を聞けるように努力していきたいと考えている。
- ・復興局は復興特区に関する交付金や特区申請の業務を行っている。また、特区法と

は別の、原子力災害を対象とした福島特区法案が今国会で審議される予定であり、そのようなもろもろの制度が準備されつつある状態で、浪江町については除染や警戒区域見直しが進む中で各制度を活用いただき、復興に向けて取り組んでいくと考えている。

- ・今回出席させていただき、復興ビジョンより早くに、具体的な復興計画を進めるべきとの意見が多かったことという印象を受けた。具体的な課題が出てきているところではあるが、自分としても情報が足りないことを感じており、各委員としても感じている面はあるかと思う。東京の方には現場の状況を伝え、検討が進むように努めていきたい。

#### 鈴木委員長

- ・復興ビジョンを作り、その復興ビジョンから具体的な復興計画の検討へ移行するには大きなジャンプが必要になる。また、今日にあった具体的な意見を計画の中で実現すべく制度を検討したり、町役場が日常的に取り組んでいる業務と折り合いを付けたりすることも必要になってくる。できる限り早くに復興ビジョンを復興計画に結びつけ、実施できるような体制を作り上げる必要があると考える。
- ・仮設住宅はコミュニティ単位で移設・再編成できれば、との意見があったが、前回にお示ししたとおり、浪江町だけで28箇所の仮設住宅が分散・配置している。さらに双葉郡8町村と飯舘村を加えれば数は多くなる。これを再編成することになると浪江町だけの調整では済まなくなる。例えばいわき市に仮設住宅を設置すべきという意見があるが、浜通りでいえば南相馬市といわき市にそのような集合住宅の建設が集中する考えがあり、既にいわき市には相当数の相談が届いているとのこと。住宅だけ並べば良いわけではなく、医療、福祉、ショッピングセンターなどの購買施設などがなければコミュニティは成立しない。そのようなことも含め検討していくことになる。また、次の段階を見据えた体制作りも見通していかなければならず、それを復興ビジョンとして取りまとめ、次の作業に入っていきたいため、次の委員会では具体的な提案を行いたいと考えている。
- ・復興ビジョンや復興計画が動き始めた際には、その計画などがきちんと進んでいくかをチェックするような体制が必要になってくる。現在、福島県の総合計画は、総合計画審議会の他に、進行管理を行う進行管理の部会と事業評価監視の部会が設置されている。そのような会があることが町と住民を繋ぐ手立てにもなるため、各委員には復興検討委員会の委員のみならず、そのような進捗管理の場面にも参画していただくことになるかもしれない。本件についても次回までに提案できればと思う。
- ・今回は各委員の意見を伺い、次回に最終的なたたき台をお示しするという段階にきたことを確認したい。

#### 事務局

- ・今後のスケジュールは、あと2回の開催を予定している。第7回復興検討委員会は

3月9日(金)に実施することを予定している(終了後、3月14日(水)に確定)。  
第8回復興検討委員会については、3月27日(火)に実施することを予定しており、その上で鈴木委員長に、月内に答申していただく予定でいる。

- ・第7回復興検討委員会では、今回議論になった点についてどのように復興ビジョンを修正していくかを委員長と調整し、次のバージョンの復興ビジョンをお示ししたい。事前にお送りできればと思うが、委員会内で議論していただき、さらなる修正意見をいただき、第8回復興検討委員会で最終了解をお願いできればと考えている。
- ・浪江町としての決定は年度内に予定していたが、パブリックコメントの意見を丁寧に取り入れたいとの考えから、4月に先延ばししたいと考えている。その点をご了承いただきたい。また、浪江町役場の執行部レベルでの決定で良いのか、それとも議会を含めた大きな町のビジョンとして位置づけた方が良いかは議会と調整し、その取り扱いを次回に報告したい。
- ・子どもアンケートの回答は大部であったため全てお目通しできなかったと思う。できれば2月29日(水)までに、各委員の受け止めについてご意見をいただきたい。

以 上